

なかなか帰ろうとしない客。2度目のアンコール。やっと出てきた3人の男。「今日はほんとにありがとう、また来ます」ボーカル&ギターの手がこぎり終るが早い、ドドダドドダド、ドラマーがビートを刻み出す。と、フロアタムの上に突然水しぶきが上がり出し、その水の固まりはどんどん大きくなっていく。最後の曲を演奏を始めたバンドと、それに合わせて思い思いのアクションで応える客達を、いつもの倍の規模の照明がまぶしく照らし出している。

川口ユージを新しいベーシストとして正式



に迎えたザ・キッズは、その最初のステージを5月2日小倉イン・アンド・アウトで行なった。それ以前にも川口は、1月20日やはりイン・アンド・アウトでのライブを最後にキッズを脱退した千葉ヒロシのあとの助っ人としてスケジュールをこなしたり、“Sunset Calling” “Dancer” のレコーディングに加わったりしていたが、このたび正式に加入が決定した。

この5月2日ライブにキッズは相当な力を注いだ。それは久々のソロライブだからという理由だけではないらしい。

「今まではライブっていうとただガンガン演奏するだけっていう、言ってみれば割合単純なことやっとならみたいでね。もう少し何ていうかライブを立体的なさ、奥行きのあるものにできんかなと思って。聞くぶんにも見るぶんにも」（桐明孝治）

加えて最初の自主テープ“Noise”の頃から比べると曲想、またそのアレンジともに随分変化していることにも気がつく。これはやはりヒップス、田中ミツルwithニュースでの



活動を経たドラム寺山ひろみのポップ感覚が表面に出てきた証拠だろう。ただ桐明の歌詞における美学には何か一貫したものがある。

（このへんのところは寺本祐司氏がフカーク研究分析されているのでそちらを参照ね♡）

さて現在キッズは“Noise” “Hero on the Street” “Count Down”（ツアー先でのみ発

売）に続く第4弾自主テープ製作を企画中である。「キッズは俺が想像してたバンドよりはるかにハバを持っていた。今度のテープはまたそれよりも一段と広がりを見せることになりそうな感じ」（川口）というから、乞御期待ってどこ、かな？



◀(中央)飛び散る水滴に光が当たるととても美しくエキサイティング(右)当日照明を担当したリユージ君。ユージとこんがらがった。